

南那珂の普及活動 (普及活動月報)

令和7年10月
南那珂農林振興局
(南那珂農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1 第66回県畜産共進会が開催

4日、都城地域家畜市場において肉用種牛の部が、21日、株式会社ミヤチク高崎工場において枝肉の部が開催されました。

当地域からは、種牛の部に7頭、枝肉部門に牛10頭、豚3組を出品しました。

また、畜産功労者表彰で日南市の河野秀一氏が表彰されました。



肉用種牛の部の様子

2 令和7年度南那珂地域畜産キャラバンが開催

23日、日南総合庁舎にて、南那珂地域畜産キャラバンが開催され、県（畜産振興課）・JAみやざき・畜産協会による情勢報告が行われました。

また、地域における課題についての意見交換が行われました。今後も関係機関一体となって、事故率の低減等、生産性向上のための支援を行います。

3 令和7年度10月期子牛品評会が開催

28日、南那珂地域家畜市場において、10月期子牛品評会が開催され、39頭の出品がありました。

結果、日南市日南支部の大川内氏の「ふくはる3242（桃白鵬×耕富士×秀菊安）」号が優等賞首席、串間市大東支部の深江幸二氏の「ふくたかみこ4（二刀流×耕富士×美穂国）」号が2席、串間市大東支部の星田和希氏の「よしこ554（桃白鵬×秀正実×美穂国）」号が3席を受賞しました。



表彰式の様子

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（基本、専門、重点）に関する普及活動

総1 地域農業の担い手確保と技術・経営管理能力向上による人材育成

1) 第2回南那珂地域青年農業者等支援連絡会議を開催

16日、南那珂地域の人材育成、担い手確保に係る中核的な連携会議である南那珂地域青年農業者等支援連絡会議を開催しました。本会議は、年4回の開催を計画しており、今回は2回目になります。

新規就農者の相談状況、認定新規就農者の営農状況の共有、新規就農者の呼び込み対策に関する意見交換、アグリセミナーへの提案募集、担い手関連補助事業等に関する情報共有を行いました。

また、次期長期計画における地域プランでの、新規就農支援対策の取組について関係機関に共有を図り、来年度からの計画期間に向けたスムーズな施策実施に協力を呼びかけました。

今後も引き続き、産地サポート体制の充実にに向けた連携に取り組んでいきます。



協議会の様子

2) スイートピー産地見学会を実施

29日から31日にかけて、日南市、JAみやざき等の連携のもと、スイートピーの産地見学会を実施しました。この取組は、宮崎県農業振興公社の橋渡しで実現したもので、花き類での就農を目指し全国の花き産地を巡っておられる県外在住の1組の御夫婦が参加されました。見学会では、JAからの産地概要説明をはじめ、日南市内の6農場を回りスイートピー経営の魅力や厳しさ等を学んでいただいたほか、最終日には、花の収穫や花束づくり等の作業も体験いただきました。

今後も、当地域の新たな担い手の確保に向け、今回のような誘致活動に取り組んでいきます。



産地見学会の様子

3) J Aみやざき串間市大東地区本部農業経営体支援センターと連携したコンサル巡回の実施

14日及び17日、J Aみやざき串間市大東地区本部農業経営体支援センターとともに、認定農業者2名（肉用牛繁殖及び施設果樹）を対象に2回目の地域基本コンサルを実施しました。8月に現地確認及び状況の聞き取りを行い、今回は、その結果を共有し、課題解決策の検討を行いました。肉用牛繁殖農家については、子牛の出荷体重を上げるため、飼料の適正給与が課題であることから、適正量を把握するため、コンサル終了後、自ら飼料分析を依頼するなど、改善に向けた取組を始めました。

4) 令和7年度農業改良普及職員九州ブロック研究大会で発表

28、29日、普及員の資質向上と普及活動の高度化を目的とした本研究大会が熊本市で開催され、産地サポート体制の確立と担い手や労働力の確保対策の取り組みなど、当総合プロジェクト活動に関するポスター発表を行いました。

また、他県の発表等を通して、九州各県の担当者と意見交換することができました。

今後、この大会で得た情報を普及活動に生かしていきます。



発表の様子

総2 南那珂地域における持続可能な水田農業の実現

1) 大規模稲作経営体に対して経営状況調査を実施

27日に水田農業規模拡大プロジェクトに係る管内の大規模稲作経営体2戸に対して、経営状況の把握と経営体が抱える課題等について、専技および県農産園芸課とともに聞き取り調査を行いました。いずれの経営体においても、労力分散や経営リスク低減の観点から、主食用米および加工用米、飼料用米を組み合わせ、ドローンをはじめとしたスマート農機の導入により、省力化・効率化を図っていることがうかがえました。

今後は、経営データを取りまとめ、フィードバックを図りながら、経営改善につなげていくこととしています。



聞き取り調査

2) カボチャの品種比較試験

14日及び27日に、日南市吉野方のフォアス（FOEAS）整備ほ場において、JA営農指導員とカボチャの品種比較試験に係る生育調査を実施しました。試験品種は、慣行品種「栗将軍」のほか、新品種「くりゆたかDX」及び「グラッセ」の3品種です。

同地区では、令和5年度からフォアス整備が進められており、今後の水田の持続的かつ効率的な利用方法について、検討しているところです。

今後は、収量および品質評価を行い、試験品種の導入の可能性について、確認していく予定です。



生育調査の様子

3) 重点対象農家への支援

16日、畦畔除草剤の効果について、重点対象農家である（株）みのりと結果の共有を行いました。調査の結果、除草剤散布後1ヶ月間は効果が持続することを確認しました。

今後は、除草剤散布の有無による草刈りの回数の差を検証し、省力効果を整理していく予定です。調査結果は、ネットワーク会等で情報共有を行っていきます。



打合せの様子

4) 串間市大島堰北部地区のタマネギ実証試験(定植作業)

17日、串間市大島堰北部地区において、生産者、関係機関及び農機メーカー参加のもと、タマネギ栽培実証試験の機械定植作業を実施しました。

機械定植は3年目ということもあり、作業はスムーズに行われました。

本年度は、昨年度に引き続き、切りタマネギと無マルチ栽培の実証にも取り組むほか、収穫機械の実証もあわせて行う予定です。



機械による定植作業

5) 串間市下弓田地区への地域支援

21 日、串間市下弓田地区公民館にて、下弓田地区農用地利用改善団体の役員会が開催され、9 名の地区役員と市、振興局、普及センターの職員が参加しました。

会では、策定された地域計画に基づいて、鳥獣被害防止対策関係事業や基盤整備事業への取組検討について協議が行われ、地域の持続的な営農に向け、様々な意見交換を行うことができました。

今後も引き続き、市と連携して、具体的な事業活用等に関する協議を進めていく予定です。

専 1 産地ビジョンに基づいた食用かんしょ産地の維持

1) 串間市サツマイモ基腐病対策連絡会議が開催

7 日、串間市役所において、関係機関・団体参集のもと開催されました。

J A から販売及び生育状況について情報提供があった他、市からドローン防除の実施状況などについて説明がありました。

普及センターからは、今年度の各種対策試験や定点調査の途中経過について説明しました。

今後も関係機関・団体と一体となって、病害対策に取り組んでいきます。

2) かんしょ栽培暦の検討会を実施

1 日、串間市、J A、振興局、普及センターで、8 年産のかんしょ栽培暦の検討を行いました。

検討会では、7 年産の途中に適用拡大となった農薬などの情報を整理し、前年度の栽培暦と変更となる点について協議を行いました。

今回、検討した内容を反映させた 8 年産の栽培暦は、12 月以降に座談会等の場を通じて、管内の生産者へ配布予定です。

3) サツマイモ基腐病対策試験ほの調査を実施

24 日、令和 7 年度に管内で設置しているサツマイモ基腐病対策の抵抗性品種比較試験の収量調査などを関係機関参加のもと実施しました。

また、10 月に入り抵抗性品種である「べにひなた」の貯蔵試験を開始しています。

栽培試験の結果については、今後データを取りまとめ、11 月以降開催される研修会や座談会などの場において、生産者に報告する予定です。



収穫調査の様子

専2 マーケットインを意識した産地再編による茶業経営の安定

1) J Aみやざき串間市大東地区本部茶研究会実績検討会が開催

2日、J Aみやざき串間市大東地区本部会議室において、茶実績検討会が開催されました。

今年産の取り扱い実績は、出荷数量は前年を大幅に下回る結果となりましたが、単価については、実需者からのドリンク需要が堅調であったことから、相場が急騰し、前年より大幅に高い結果となりました。

また、普及センターから「今後の茶園管理について」について土づくりや秋整枝等について説明を行いました。

茶の情勢が大きく変化していることから、効率的な茶経営の実現のため、茶園毎の収益性の見える化を行い、茶園の選択と集中を図っていくことを申し合わせました。



実績検討会の様子

専3 10年後の産地を担う畜産経営体の育成

1) 重点対象農家の巡回を実施

10日と17日に、串間市の重点対象農家（肉用牛繁殖農家）2名の巡回を行い、いもち病抵抗性イタリアンライグラスの展示ほを設置を行いました。

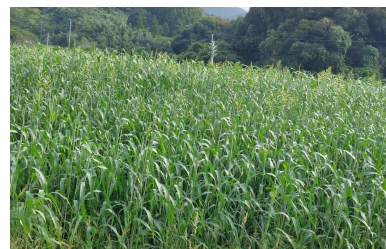
また、重点対象農家のほ場を随時巡回し、生育状況の確認を行いました。

今後も引き続き、定期的な巡回を行い、生産性向上を目的とした牛の飼養管理について支援します。

2) 飼料作物展示ほの生育調査を実施

15日、日南市で、施肥効果比較展示ほ（スーダングラス）の収量調査を実施しました。今後、乾燥重量や栄養成分の比較を行います。

引き続き、地域に適した栽培方法について調査を行うなど飼料作物の安定生産を支援します。



展示ほの状況

専 4 産地ビジョンに基づいた果菜類(きゅうり・ピーマン)の生産性向上

1) 施設園芸デジタル化推進プロジェクト (Dプロ) アプリ研修会を開催

7日、県で進めている施設園芸デジタル化推進プロジェクト (Dプロ) の参加者を対象に、Dプロで開発しているアプリ操作の研修会を開催しました。

県農産園芸課から、Dプロのこれまでの取組や今後のアプリの方向性の説明がありました。また、これまでに実装されたアプリのコンテンツの活用方法について、野菜専技からの研修を行いました。その後、参加者は実際に自分のIDでログインして、環境データの閲覧方法を確認しました。

今回は、きゅうり、ピーマンの部会長、支部長にも参加いただき、ログイン体験もしていただきました。

今後の巡回調査で、生育状況と合わせたアプリの活用を支援していきます。



研修会の様子



実際にアプリを操作

2) Dプロ参加者を巡回

15日、Dプロアプリ研修会に参加できなかった参加者に対するフォローアップとして、資料を持参して説明を行いました。訪問した生産者は、今後の栽培管理に活かしていきたいと喜んでいただきました。

今作でのアプリの活用について、今後も定期的に巡回支援を行っていきます。



アプリの説明の様子

3) 胡瓜部会・ピーマン部会の出荷協議会が開催

21日に胡瓜部会、22日にピーマン部会の出荷協議会が開催されました。

いよいよ今年も出荷の本格化が間近となり、各部会生産者に対して出荷基準等の変更点などの説明が行われ、活発な質問が出ていました。

今作の安定生産のために、普及センターもしっかり支援していきたいと思えます。



きゅうり出荷協議会の様子

専5 環境制御によるマンゴーの品質向上と露地かんきつの経営安定

1) 地区営農振興協議会果樹部会を開催

7日、総合農業試験場亜熱帯作物支場において、果樹技術員18名の参加のもと、標記学習会が開催されました。

会では、今年産の温州みかんの病虫害や生理障害等の発生状況を把握するための外傷果調査を実施するとともに、日焼け果軽減に向けた展示ほの実績、労働力・担い手確保対策等について検討しました。

外傷果調査の結果、今年産は平年と比較してアザミウマ類の被害や小黑点病、日焼けの発生が多い状況でした。

この結果を次年度の防除暦の作成等に活かし、今後も関係機関と連携しながら産地の維持・発展に向けて取り組みます。



温州みかん外傷果調査の様子

2) はまゆう地区本部早期きんかん出荷協議会が開催

14日、はまゆう地区本部管内において、早期きんかん生産者18名の参加のもと、標記会を開催しました。

会では、参加者全員で園地を巡回し、果実横径や着色等の生育状況を確認しました。今作は平年よりやや着色が遅いものの、平年並みの着果量を確保できる見込みです。

出荷は例年並みの11月6日より開始される予定です。

3) 露地かんきつにおけるドローン薬剤散布試験を実施

28日、総合農業試験場亜熱帯作物支場において、果樹技術員11名の参加のもと標記試験を実施しました。

本試験ではドローン業者に依頼してミカンハダニに効果のある薬剤を散布し、感水紙を用いて葉への薬剤の付着状況等を確認しました。

今後、散布後のミカンハダニの頭数を調査し、防除効果を検証する予定です。



ドローン薬剤散布試験の様子

専6 南那珂花き産地戦略に基づいた産地育成

1) 「はまゆうスイートピー」出荷協議会が開催

24日、JAみやぎきはまゆう地区本部花き部会において、出荷協議会が開催されました。

11月の出荷開始に備え、出荷基準等の説明が行われました。

品質向上・安定のため、普及センターも技術支援をしていきます。

2) 地区営農振興協議会花き部会第4回技術員会の開催

28日、花き技術員12名の参加のもと、標記技術員会が開催されました。

各品目の生育概況報告や展示ほの進捗状況確認のほか、改定される南那珂地区基本計画案について説明、検討を行いました。

今後も管内の花き産地の維持・発展を目指し、関係機関と連携しながら、管内の課題解決に取り組めます。

2 プロジェクト（基本、専門、重点）以外の普及活動

1) 令和7年度宮崎県普及指導活動外部評価会が実施

15日、宮崎県庁において、普及指導活動外部評価会が実施されました。

外部評価会は、共同農業普及事業に係わる普及指導活動について、より農業者のニーズに対応するために、先進的な農業者や農業関係団体等外部評価委員により普及指導活動の評価を受け、普及活動計画の検証と改善を図るものです。

会では、南那珂農業改良普及センターが普及計画に掲げているプロジェクトのうち、「地域農業の担い手確保と技術・経営管理能力向上による人材育成」、「産地ビジョンに基づいた食用かんしょ産地の維持」の2課題の概要および普及活動の状況を説明しました。

外部評価委員からいただいた様々な意見および評価を踏まえて、次年度以降の普及活動計画の改善を図ることとしています。

2) JAみやぎきはまゆう地区本部稲作部会日南総支部定例会が開催

9日、10日、JAみやぎきはまゆう地区本部日南総支部の定例会が各支店にて開催されました。普及センターからは、本年度の早期水稻の生育状況等や各種肥料試験の実績について説明しました。

本年度の早期水稻については、白未熟粒の発生により品質低下が見られたことから、次年度にむけ、土づくり資材の投入や水管理、さらには肥培管理の徹底を行うこととしています。



北郷支部の定例会

3) 侵入警戒有害動植物の侵入調査を実施

農産物に重大な被害を与える恐れのある重要病害虫の侵入防止対策として、ミカンコミバエ種群を対象に、フェロモントラップを用いた調査を実施しています。

2日及び14日、ミカンコミバエ種群のフェロモントラップ（管内8か所）による誘殺数調査を行った結果、いずれも誘殺は確認されませんでした。

今後も、南那珂地域への侵入・まん延を防止するため、定期的な調査を実施していきます。

農業者、漁業者、県民の皆さまの「知りたい！伝えたい！相談したい！」にお応えします！



宮崎県農業・水産業ナビ
ひなたMAFiN
Miyazaki Agriculture and Fisheries Navigation

農業・水産業に関する

- 多様な情報をホームページでわかりやすく提供！
- タイムリーな情報をSNSなどを活用して発信！
- 皆さまの思いや意見を集約！

ひなたMAFiN

検索



メルマガ登録はこちら